

## シンポジウム2

第2日目 10月16日(金) 9:00~11:00

第1会場 (ベイシア文化ホール (群馬県民会館) 1階 大ホール)

### さまざまなチーム医療の連携

座長 北原修一郎 (長野赤十字病院 小児外科 部長)

小川 哲史 (前橋赤十字病院 消化器外科 部長)

- S-9 チーム医療の院内連携と院外連携  
原町赤十字病院 外科 内田 信之
- S-10 NSTコンサルト型から介入型への第一歩  
石巻赤十字病院 石橋 悟
- S-11 NSTと褥瘡、緩和ケアのコラボレーションツールとしての嚥下パスの発展性—  
武蔵野赤十字病院 NSTチーム・特殊歯科・口腔外科 道脇 幸博 他
- S-12 当院におけるNSTと他のチーム医療との連携  
長野赤十字病院 NST 長田ゆき江 他
- S-13 さまざまなチーム医療連携 —院内の6つのチーム医療との連携—  
前橋赤十字病院 NST 伊東七奈子 他
- S-14 当院におけるチーム医療の現状~医師主導型からの脱却を目指して  
さいたま赤十字病院 クリティカルパス委員会 安藤 光威 他

## S-9

## チーム医療の院内連携と院外連携

原町赤十字病院 外科

○<sup>うちだ</sup>内田 <sup>のぶゆき</sup>信之

【背景】 病院内でのチーム医療の導入は、それぞれの分野で医療の質を上げたのみでなく、チームのメンバーの専門意識を高めることとなり、多くの人材を輩出することとなった。一方、チーム医療の活動は、その活動に専念すればするほど他チームとの活動との間にギャップが生じやすいため、チーム間の連携が弱くなる可能性も否定できない。

【目的】 今回われわれは、当院のチーム医療の現状と、当院を中心とした地域の医療介護施設との連携の現状を把握し、当院が進むべき今後の方向性について検討した。

【当院のチーム医療とチーム間連携】 当院には、NST、緩和、褥瘡、ICT、化学療法の5つの分野で、積極的にチーム医療を実践している。それぞれ月1回の委員会のほか、定期的な勉強会やチームごとの回診（化学療法を除く）を行っている。当院の特徴は、病院の病床数が227床ということから推測される通り、一人で複数のチーム医療に関わっている場合も多い。しかしながら、共同の委員会や勉強会が開催されることがほとんどない。今後は、各チーム間の垣根を低くして、よりいっそうの連携を深めていきたいと考えている。

【地域の医療介護施設との連携】 NSTや褥瘡の分野では、積極的に院外連携を深め、定期的な委員会や勉強会を行っている。また地元医師会との連携で、年2回のがん市民公開講座を開催している。当院は、群馬西北の山間部である広大な吾妻地域の中核病院である。当院の医療に対する地元住民の期待に、われわれは十分に答えていかなければいけない義務がある。【考察】 地域中核病院の重要な責務のひとつは、チーム医療の実践の中で築きあげられた強力な絆をもとにした、地域の医療介護施設とのきめ細かい連携と思われる。今後は、今まで以上に広い視野で、充実した地域医療を実践していきたいと考えている。